



7月24日(日)は岩手県の山田町で同じ料理で実施した。ここは隣の宮古市、大槌町などと同様に壊滅的な被害を被った所である。死者、行方不明が1,000人近く、3,200名の避難者を出した。時間前に長い行列が出来たので早めに開始したが、約500名で料理が尽きた。前日、盛岡入りし、当日の朝は全員5時起きで6時前に出発し、目的地に9時ごろ着いた。終わって、盛岡に引き上げ、横浜の自宅には夜中の12時過ぎにたどり着いた。

9月24日(土)は福島県いわき市の「スパリゾートハワイアン」の協力により、ホテル内で実施した。500名の被災者を受け入れた所で、約300名が再び集まっていた。大広間で非常に和やかな雰囲気の中、お年寄りや家族ぐるみで大いに賑わい喜んでいただいた。

第4回目はホテルメトロポリタンエドモントにて「夢の饗宴」と題し、11月30日(水)に元鉄人の坂井宏行氏と、元ハウステンボスの料理長、上柿元勝氏と私、同じ鹿児島出身の3人のシェフで

ゴブラン会の協力によるチャリティガラディナーを実施した。

その売り上げの一部で、12月10日(土)に気仙沼の2カ所で、早めのクリスマス料理で持て成す計画を立てたのである。1ヶ所目は唐桑地区の民宿なぎさで約120名の幼稚園生とその保護者の皆さんに。2カ所目の舞根(もうね)地区は、畠山重篤さん達の牡蠣と帆立貝の養殖場で入江に面した素晴らしい環境の場所であった。今回の津波で約40棟の家屋もろとも地域が壊滅した所で



7月、岩手県盛岡からバスで山田町に向かう時、穏やかな田園風景の中を走っていると、岩手県に大きな被害があったなんて信じられませんでした。鉄の町として有名な釜石から、海岸沿いの道路に抜ける時、丘の上にある新日鉄釜石も、一部が津波の被害を受けているのを見たとき、一瞬下の海岸沿いにある町はどうなっているのか心配しました。案の定商店街や街並みは壊滅的な被害を蒙っていて、人知の及ばない自然の脅威を改めて思い知りました。丘の上にある山田町役場に到着して、職員の方に話を聞いた所、役場の下にある駐車場まで津波は到達

し、当たり一面は火の海と化していたことを聞き及び、淡々と話をしている職員さんに、その時の気持ちまで聞くことはできませんでした。しかし、これだけの被害にあっただけで笑顔を保つことができず、人を助け合う姿を見て、日本人の美しい心に触れた気がしました。支援の第一歩は同情することではなく共感することの観点から、ゴブラン会の行動は、意義のあることだと思います。

アルピーノ 代表取締役社長
鎌田 守男



第1回、第2回炊き出しにも参加したいと思っていましたが、仕事と重なってできませんでしたので、第3回、4回目に参加でき、少しでもお役に立ったことを嬉しく思っています。当日は、大変な緊張とともに、戦場のような騒ぎの中で、盛り付けしたフランス料理のお皿が、残されることなく戻ってきたことや、カップを何度も持ってポターージュのおかわりに来られたおじいちゃん、おばあちゃん達に、これから来る厳しい寒さをどうか無事で乗り切っていただきたいと祈るような思いでした。また、お互いの無事を喜び合い、共に困難を分かち合ってきた人々の豊

かな人間関係は見ていて羨ましい位でした。福島県いわき市では、丁度食べ頃を迎えた柿の実がたわわになっていて、それらがひとつとして収穫されることなく朽ちて落ちている様子は悲しく、いつの日かこれらの柿を「今年の柿は特別に美味しいね」と言って食べる日が訪れるのだろうかと思ってしまうました。

INAMI cooking salon 主宰
稲見 浩子